



拝啓

涼しい秋の夜長に秋の訪れを告げる虫の音を聞きながら、ゆっくりとページをめくる時間が楽しくてうれしい季節になりましたね。  
最近、何か心に残る本との出会いはありましたか。  
秋の味覚が楽しめるレシピ本や、芸術の秋にちなんだ本、  
綺麗な紅葉の写真集、そして心穏やかな時間をくれる小説など、  
「読書の秋」を素敵にする一冊を図書館で見つけないか。かしこ

～今月のラインナップ～

## **Calendar**

2025年10月・11月カレンダー

## **LiLian Special Info.**

残暑を払う！気になる〈怖い話〉

## **今月の一冊**

『スロウハイツの神様』 辻村深月／著

## **LiLian Interview**

加藤悠介先生（生活環境学部 環境デザイン学科）



2025年  
10月

開館時間  
★8:45-19:30  
○9:00-16:30

2025年  
11月

開館時間  
★8:45-19:30  
○9:00-16:30

日	月	火	水	木	金	土
			1 ★	2 ★	3 ★	4 ○
5 休	6 ★	7 ★	8 ★	9 ★	10 ★	11 ○
12 休	13 ★	14 ★	15 休	16 ★	17 ★	18 ○
19 休	20 ★	21 ★	22 ★	23 ○	24 ○	25 ○
26 休	27 ★	28 ★	29 ★	30 ★	31 ★	

日	月	火	水	木	金	土
						1 ○
2 休	3 ★	4 ★	5 ★	6 ★	7 ★	8 ○
9 休	10 ★	11 ★	12 ★	13 ★	14 ★	15 ○
16 休	17 ★	18 ★	19 ★	20 ★	21 ★	22 ○
23 30 休	24 休	25 ★	26 ★	27 ★	28 ★	29 ○

最新の情報はHPをご確認ください



学生・教職員  
の皆さん

返却期限の延長はスマホから行ってください

①My Library



②貸出・予約状況



③更新



④OKで延長完了

延長は2回までOKです！

ただし1冊でも期限切れがあると、全ての資料が延長できません。  
予約が入っている資料も延長できません。

LiLian  
Special Info.

## 残暑を払う！ 気になる〈怖い話〉

年々、夏の終わりが遠のいているような気がします。けれど、どこかに秋の気配を感じながら、ほんの少し涼しくなるような、そんな一冊に出会いたくなりませんか？

今号では、LiLian 2 人がそんな季節にぴったりの、心に残る

「ちょっと怖い本」や「ホラー小説」を集めました。

夏の終わりの読書に、一味違う涼しさをどうぞ。



『残穢』 小野不由美/著

913.6/O675/11 閲覧室 2 F (読書コーナー)

「怖い話」というより「怖い本」という読後感を味わえる、傑作ドキュメンタリーホラー小説。一人の作家のもとに、部屋から異音が聞こえると読者からの手紙が届いたこと端緒に、マンションや近隣団地等に起こる怪奇現象や過去の事件を追及していく。始まりは些細な霊的体験だったが、風呂敷を広げるようにして浮き彫りになるこの壮大な追憶の物語を、ぜひあなたにも追ってほしい。

『近畿地方のある場所について』 背筋/著

913.6/Se89 閲覧室 1 F (展示)

消息を絶った友人について、情報を求める書き手と、インタビュー記事からなる物語群を追うホラー小説。複雑に絡み合うようにして語られる怪奇は、全て近畿地方のとある地域につながっていた。読み進めるうちに、自ずと真実に近づいていく。不気味さと不可解さを併せ持った、現実と創作の境目に迷う作品。気になるのであれば、ぜひ手に取ってみてほしいと思わされる一冊。

『曾呂利物語』など江戸時代に出版された怪談本の中から怖い話や面白い話を現代語訳してまとめた小説。（現代語訳では、わかりやすさを重視して原文の改変や加筆修正があります。）加筆修正された現代語訳で「女の一念」が起こしたコワイ話や「因果応報」のコワイ話というように1つ1つが短いお話がまとめられているので、古典作品を普段は読まない人や時間がない人にもおすすすめな気軽に読める一冊。

『きみはサイコロを振らない』 新名智/著

電子書籍 金城学院大学電子図書館

同級生の莉久と呪いの研究をしている大学院生の葉月と共に「遊ぶと死ぬ」ゲームを探すことになった主人公の志崎晴。呪いのゲームの正体を追ううちに、晴は忘れられない中学時代の友人・雪広の死の真相に近づいていく。キャラクターにも魅力があり、ホラーだけでなくミステリーも楽しめる『虚魚』や『あさほと』の作者が書く青春ホラーミステリー。怖くなる描写もあるが、ホラーをあまり読まない人にもおすすすめの一冊。



〈ちょっと怖い体験×続きが気になるホラー小説〉

一人きりの部屋で夜遅くにホラー小説を読んでいたときは、何か出るんじゃないかと背筋が冷える思いをしました……。物音一つでも驚いてしまい……。だけど、それも良いスリル体験になりました。皆さんもぜひ、今回紹介した本などを残暑のおともにしてみてくださいね！（ひなこ）

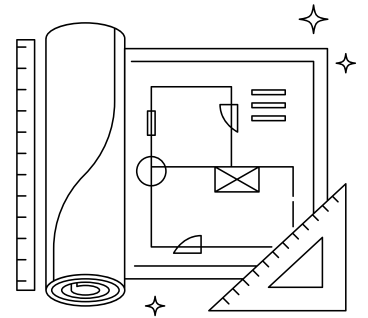
ホラー小説を読み始めると続きの展開が気になってしまい、夜でも最後まで一気に読んでしまいます！しかし、夜にホラー小説を読むと何かが後ろにいるような気がして怖くなってしまいます……。同じような経験をした人も多いのではないのでしょうか。まだまだ暑い今年の秋は、ホラー小説で涼しさを感じてみませんか？（あやか）

# LiLian Interview

大好きな先生に  
インタビューに  
行こう68

生活環境学部 環境デザイン学科

## 加藤悠介先生



### 1. 研究内容と、建築に興味を持たれたきっかけ

研究分野は建築計画です。建築計画は設計の一手手前に行くものです。人々の動線や、居心地よく過ごすためにはどんな風に設計したらよいのかを考えます。私はこの知識を福祉施設の建築計画に応用し、利用者が豊かに暮らせるような設計を目指しています。建築の道に興味を持ったというより、流れ着いた感じですね。建築計画には目指すべき理想と守るべき基準の両方があります。自分が何を設計しようとしているのかを明確に伝えられるように心掛けています。

### 2. 学生に教える中で、大事にしていること、 心掛けていること

環境デザイン学科では1年生から学生が図面や模型の作品を作り、7～8週間かけて1対1でアドバイスを行っていきます。その中で私は「作ったものを利用する人の気持ちになって」という言葉をいつも言っています。自分の設計した作品の中で、人がどう生活していくのかを、利用者の視点に立ってどれだけ豊かに想像できるかが大切です。具体的には、誰と住むのか、ダイニングの広さ、階段の位置、廊下の窓の有無などですね。目の前の人のために設計しているのだと常に意識しながら作成するようにと伝えています。また、研究のための出張で、リノベーションや新築を問わず「面白い場所」によく行くので、講義では、そうした事例を豊富に見せるようにしています。

### 3. 大学のキャンパス内でお気に入りの場所

薬学部近くの里山など自然が多い所が好きです。虫がいっぱいいる所も好きですね。今は伐採されてしまいましたが、以前は図書館横の木でクワガタを見つけたこともありました。あとはラクロス部のコートの方に車を停めて、そこから研究室があるW3棟まで続く道を歩くのも好きです。鳥の鳴き声なども聞こえてきますしね。葛の葉にパンダゾウムシ（オジロアシナガゾウムシ）を見つけたり毎日の通勤が散歩みたいでワクワクします。また、W3棟の北側から見える、翠松園という高級住宅街の景色も気に入っています。

### 4. 学生の間やっておいた方がいいこと

一番は「好きなことをやる」ことですね。今は就職活動が早くから始まるので、学校やアルバイト以外に、自分の好きなことに時間を使ってほしいです。環境デザイン学科の学生には、何日もかけて車や電車で旅をしてほしいと伝えられています。

私自身も学生時代、フェリーで建築を巡る旅をしました。大阪から瀬戸内海を経て福岡県の門司港へ。そこから山陰と九州をぐるっと回ったんです。当時はフィルムカメラを使っていたので、写真を一枚撮るのにも慎重でした。建物が一番美しく見える場所や時間、その場の空気や色まで考えてシャッターを切っていました。

### 5. 趣味

子どもが生まれてから趣味はなくなりましたね。以前は映画や落語が好きでした。特に韓国の映画が好きで、『パラサイト 半地下の家族』のポン・ジュノ監督が作る、心にドンと響くような作品を見るのが好きです。最終的にもやもやするものが好きなんですよ。日本の映画だと、朝井リョウさんの原作である『桐島、部活やめるってよ』や『正欲』がいいですね。一方、落語は映画とは反対に、聴き終わった後にすっきりするものが好みです。子どもと一緒に寝る前などに聞いています。『二番煎じ』や『禁酒番屋』などが特に好きですね。

## 6. 学食で好きなメニュー

私はよくリリー・ウエストでお昼を取ります。定食であればなんでも好きです。特に、定食のお味噌汁を、豚汁に変更するのがお気に入りです。味噌汁よりも豚汁の方が好きなんです。550円に収まるように選んでいます。あと、インドカレーのフェアがある日は、ウキウキしています。

## 7. お気に入りのトートバッグ

トートバッグは海外へ出張に行った時に買ってきます。土地ごとに面白いトートバッグがあるんですよ。ロンドンにある現代美術館テート・モダンで買ったトートバッグとかね。中でも一番のお気に入りは、イギリスのシェフィールドでリノベーションの調査に行った際、「ホーキンス・ブラウン」という設計事務所でいただいたトートバッグです。建築家の方に話を聞きに行った時に「そのバッグがカッコいいですね」と言ったらもらえました。シンプルながらA3の図面が入る大きさでとても役に立っています。



## 8. 大好きな一冊は何ですか？

『蝶のゆくえ』橋本治／著      請求記号 913.6/H38/9/

短編集なのですが、その中の「ふらんだ一すの犬」という章が好きです。この話は虐待を受けている少年が親をどう認識しているのかという内容です。重くて胸がぎゅっと締め付けられますが、忘れてはいけない大切な視点だと思います。

### ★インタビューを終えて★

今まで触れたことのない分野のお話が聞けて、とても楽しくあっという間のひとときでした。時折、質問を織り交ぜながらお話してくださり、さらに興味を惹かれました。ありがとうございました。（なつき）

建築計画という言葉は今まで知らなかったもので、今回のインタビューでは、設計の前に人の流れの計算や、利用する人がより良く生活できるかを考える段階があることなど、自分が今まで知らなかった分野のお話を聞くことができ、とても興味深い時間でした。（ゆい）



LiLian  
今月の1冊

# 『スロウハイツの神様』

辻村深月／著

請求記号 913.6/Ts44/4  
閲覧室2F（読書コーナー文庫）

脚本家の赤羽環がオーナーを務めるアパート「スロウハイツ」を舞台に、漫画家や映画監督を目指す若きクリエイターたちが共同生活を送り、互いに成長していく物語です。新たな住人が入居したことをきっかけに不穏な方向に変化したり、好きなことを追いつけることでぶつかる壁など、様々な困難を乗り越えていきます。著者の細やかな心情描写、心の痛みや感情の表現が読み手に刺さります。読んでいるうちになぜか自分のことを言っているようでドキッとするかもしれないし、小説の中の誰かに投げかけている言葉が、自分に呼びかけているように思えるかもしれない。なかなか前に進めない背中をドン！と押してくれる一冊です。

（ゆうか）



Library  
News

金城学院大学図書館電子図書館

～Digital Library～

スマホでアクセスできる電子図書館！「これ読みたい！」が決まっていなくても、きっと皆さんの好奇心をくすぐる本が見つかります！

『変な家』雨穴／著

『月の立つ林で』青山美智子／著

『推し、燃ゆ』宇佐見りん／著

『いつかすべてが君の力になる』梶裕貴／著など

こちらから  
どうぞ

